

## 前回会議(第3回検討委員会)の振り返り

### 1 「参加」の促進

#### ■町内会加入及び参加促進のための方策

- 町内会に加入することによるプラスのメリットや色をつける工夫があるとよい。

#### ■町内会費の徴収方法

- 町内会費の徴収方法は、町内会の規模や取組などによって異なるが、振込にすると班長の負担が軽減されるが、人と人が接する交流の機会がなくなってしまう。

### 2 「ノウハウ」の共有

#### ■ノウハウの共有や専門性のあることへの支援

- ノウハウや専門性の支援については、より強化することが必要。会計などの専門的なことについてはアウトソーシングできるような仕組みがあれば。「町内会ヘルパー」という感じで町内会の運営上、必要なことを支援する仕組みなど。

### 3 活動の「場」

#### ■町内会の活動拠点としての場の必要性

- コミュニティの中核となる町内会を強化していくためには、町内会としての独自の会館などの場が必要である。また、町内会の活動拠点を建てる時に助成金などがあるとよい。
- 町内会が継続的・長期的に活動できる場を確保することが、活動の促進につながる。
- 地域によって会議頻度が異なる（年6回程度とか）ことから、その都度、借りるなどでやっているところも多い。

#### ■高齢化を視野に入れた小さい単位でのコミュニティの必要性

- 高齢化社会を考えると、小学校区よりも小さい単位で人が集まれる場所があったらよい。
- また、そのような場の整備やランニングにかかる助成金などがあるとよい。

### 4 「連携」の促進

#### ■地域コミュニティにおける学校との関係

- 小学生が歩いて通うことができる小学校区が、コミュニティの交流を図れる範囲だと思う。
- セキュリティなどの問題はあるものの、小学校で様々な交流を図っていくことが重要。
- 学校の教員も異動などで代わることもあり、現場の先生や教頭先生が忙しいという話を聞くので、地域のことを知っているコーディネーターのような人がいるとよい。
- 学校に対して、町内会側から関わりをもっていくことが必要。（参考）中学校へのアンケート「中学生が地域活動に参加するにはどのようなことが必要か」については、「地域からの呼び掛けにより取り組む」と「生徒会が中心となって取り組む」の割合が一番多い。
- オヤジの会は、これからの町内会の担い手としても学校と地域のつながりをつくることのできる新しい形である。

#### ■市民や町内会のNPOとの接点

- 市民とNPOの接点がなかなかない。
- NPOと地域の交流ができるような工夫が必要である。

### 5 「町内会加入促進条例」について

#### ■町内会加入促進に関わる条例化の他都市状況

##### 【効果】

- 区役所などでの加入促進の取組がしやすくなる。
- 不動産関連団体への働きかけやすくなる。
- 財政当局への支援等の予算要求がしやすくなる。

##### 【課題】

- ほとんどが理念的な条例となっている。
- 加入を義務付けしている都市はない。
- 条例ができたことによる劇的な加入率の変化は見られない。
- 条例はいずれの都市でも認知度が低い。

#### ■大切なのは、理念的よりも、具体的な効果につながる取組の強化